

平成24年度 児童・生徒 平和に関する図画・作文コンクール

審査講評 図画の部

今回で5回目となります本コンクールへの図画の応募は、1088点ありました。

審査は、これまで同様、次のことを基準に進めました。本コンクールの主旨である“戦争と平和について考えるとともに平和を尊ぶ心を育む機会とする”と、内容については、“沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く”などに合致した作品であるか、小学校低学年においては“身近な生活の中での平和や共生、人権教育の視点による作品”になっているか、などです。そして、それを表現するための形や色、画面全体の構図が発達段階に応じた表現であるかなどです。ちなみに形とは人物や植物などの描き方であり、色とはその形にふさわしい色づかいがなされているかということです。

中学校の作品には“戦争と平和”などを意識して描いた作品、小学校では“身近な生活の中での平和や共生”など、主旨をよく理解した作品が多かった。それぞれの校種、学年とも発達段階に応じた色や形、画面構成など表現力のよさ、感性の豊かさが感じられ、読谷の子どもたちの情操の豊かさを知ることができました。

紙幅（ページ数）の都合により、作品講評は、次の村長賞3点にさせていただきます。

小学校の部 村長賞：比嘉花菜（喜名小学校6年）「平和へ歩む」

画面下部に戦争の悲惨さを描き、その上部3分の2のスペースに平和を希求する様子が描かれています。画面中央部に描かれた5名の子供たちは後ろ姿で描かれていますが、人種の違いも分かるような見事な表現になっていますね。子供たちが見つめている視線の向こうには青い地球があり、さらにその向こうは光り輝き、周囲には虹やハトを描くことにより平和を希求している様子が強く感じられます。肩に手を掛け合い、手を組んでいるポーズは難度の高い形ですが実にうまく描けています。下方の悲惨さの色合い、上方の平和を表す鮮やかな色合いもステキです。

中学校の部 村長賞：平野珠后（読谷中学校3年）「地球の涙～悲しみから平和へ～」

涙を流しながら地球を見つめている少女、その地球の左上からは炎が吹き出しています。地球のどこかで今も民族同士の内乱や内戦、戦争が絶えることなく続いている、そんな地球の現実を憂えた涙でしょうか。画面左側には赤系統の色が配され、手榴弾や機関銃の弾などが描かれ、右側には青い空と平和のシンボル・ハトが描かれています。画面中央部にはクローバーでこしらえた丸いリースが描かれその右上の部分には四つ葉のクローバーを探することができます。リースの内側の処理、画面下方の花々にも細かい気配りが感じられ、完成度の高い作品となりました。

中学校の部 村長賞：仲村渠愛莉（古堅中学校3年）「祈り」

この作品は、画面構成が独特ですね、見るものを引きつける力があります。画面中央に「祈り」の手が菱形に描かれ、手と手の間が白いダイヤの形になり光り輝いています。手の袖の部分には、ひんがだいしょう紅型衣裳があり胴体と顔は描かれてないが人間の熱い「祈り」が感じられます。画面右側は基地

と戦争、左上には平和と愛を連想させるゲットウの花が描かれ、作品全体から平和を希求する「祈り」がひしひしと伝わってきます。手の形、紅型衣裳の形、そしてそれらに彩色した筆さばきや色づかいなど、発達段階を越えた表現力が感じられる素晴らしい作品に仕上がっています。

多くの出品者のみなさんありがとうございました。

ご多用の中、本コンクールにご尽力なされた各学校の先生方、誠にありがとうございました。

審査員：伊元隆一、与久田健一 平成24年（2012年）8月吉日